

## 五感を研ぎ澄ませて感じてます

あすみが丘小学校 教諭 奥小路晴夫

「うわ〜、くさい。」「あ、カエルがいる。いやだ。」「こんなところ、入りたくないよ。」

毎年、あすみが丘小学校の5年生が初めて田んぼを前にした時、私の耳に聞こえる小さなセリフです。

田植えの説明に入ると、「ヘビが出るの？怖いよ。」田んぼの守り神に対して身構えます。

あすみが丘小学校が、小山町の田んぼで活動させてもらい、早いもので5年になりました。毎年、5年生がお世話になっています。

上のようなセリフを吐いていた子どもたちも、覚悟を決めて田んぼに足を踏み入れます。

「あ、ねちょねちょする。」「意外と気持ちがいね。」個々に感想をつぶやいています。この時には、初めに感じたにおいのことは忘れていきます。

苗をもらい、植えていきます。足だけでなく、手でも泥の感触を感じました。田んぼの中が気に入った子は、どんどん歩いていき、所々で待ち受ける深みにはまります。「足が抜けない。誰か助けて〜。」友達と支えあいながら、活動を進めています。

もう一つのグループでは、自然観察を行っています。虫や植物に詳しい人生の先輩方に名前を聞いたり、ほぼ絶滅していると思われる生き物が小山町にいることの説明を受けたりと、大事に残されてきた自然を体全体で見えています。

田植えから2か月、夏に入ると大きくなった稲を観察と草取りをします。「ゲロゲロ、ゲロゲロと音がするぞ。」ある子は、田植えの時には聞かなかった声に気付きました。それと同時に、「オタマジャクシのほとんどに足が生えてる！」この時、自然観察の先生にべったりくっついていて、いいことがあるようです。「さっき木苺食べたんだ〜」とペロリとまだまだ食い足りないといった顔をしています。赤よりも紫に近いよく熟した木苺を紹介されたようです。全員分の数がないため、一部の子どもたちだけがこっそり味わったようです。

今年度はまだ2回しか活動していませんが、あすみが丘の街から少し離れた小山町に隠された自然を田んぼの活動を通して知ることができています。

YPP（谷津田プレーランドプロジェクト）の皆さんから五感を感じ、生き物を感じることを教えられています。このあすみ田んぼの活動、安全に進められるのも保護者やボランティアの皆様のおかげです。私たち学校職員は、子どもたちにいろいろな方の協力で活動できていることを子どもたちに伝えていきたいです。

まだ、9月の稲刈り、10月の脱穀とありますが、子どもたちがどんな発見をしてくるか楽しみです。



## 学校田んぼのかかしづくり

残暑厳しい8月20日。あすみが丘小学校、大椎小学校の学校田んぼの作業日でした。

学校田んぼの稲も出穂し、穂も少し垂れ始めています。これからだんだんと穂が垂れてきて、9月末の稲刈りまで、スズメとの戦いとなります。そのため、毎年、8月の作業日は、学校田んぼのかかし作りを行ないません。今年は、ボランティアの保護者と一緒に2人のあすみ小5年生が参加してくれました。今年は大椎小からの参加がなかったので、あすみっ子田んぼ用と大椎っ子田んぼ用と一人1体ずつ作ってもらいました。

暑い中、頑張って学校田んぼの守り神を作ってくれた2人からの報告です。

## あすみ田んぼのかかし作り

あすみが丘小学校5年 三宅 志知(みやけ ゆきちか)

「今日は、かかし作りをします。」とYPPの人が言った。

「ぼくにも作れるかな〜。」

ぼくはかかしを作ったことがないのでうまく作れるかなとドキドキした。辺りを見ると、長い竹、いらなくなった服と軍手、わらが置いてあった。

まず、はじめにのこぎりで竹をななめ半分に切り、次にもう1本の長い竹をまっすぐ半分に切った。ななめに切った竹の先になたで長方形の穴を開けた。その穴をかくすように服を着せた。穴と服のそでを通すように、まっすぐの竹をさしこみ、麻ひもで結んだ。

次に服が人間らしくパンパンになるように、わらをつめこんだ。別の布にわらをつめこんで頭を作って、胴体にくっつけた。ズボンの片方を竹にさしこみ麻ひもで結んだ。最後に毛糸のかみの毛、ぼうしをつけ、油性マジックで目、鼻、口をかいて、かかしが完成した。

ぼくは「やったー！かかしが完成したぞ。」と思った。暑い中、汗びっしょりになったけど、楽しい時間だった。田んぼの米には、黄色の稲穂がたくさんついていて、早く黄金色になってほしいなと思った。



## かかし作りを自由研究にしたよ

あすみが丘小学校5年 鈴木 朝陽(すずき あさひ)

- かかしは漢字で、「案山子」と書く。
- かかしは、田や畑などの中に置いて、鳥などの害じゅうを追いはらうための人形のこ。昔のかかしは「こがし」と言い、髪の毛や魚の頭などを焼きとくにさして、そのにおいて鳥などを追いはらった。今のかかしは、その「こがし」が変化したものと思われる。
- かかし作りに必要な材料：竹2本 麻ひも わら かかしに着させる服 白っぽいTシャツ 毛糸 軍手
- かかし作りに必要な道具：ノコギリ なた ペン 針金
- かかし作りにかかった時間：2時間（大人の手助けを借りて）
- 注意すること：見た目は大人の大きさで作るが、田んぼにさすことを考えて、3メートルくらいの高さになるように作る。
- 作り方 省略
- 感想

洋服の中にわらをつめるのが難しかったです。顔は外国人になってしまったけど、かくのは楽しかったです。田んぼにさす時、重かったり、顔がななめに向いちゃったりして色々大変でした。暑い中、がんばったと思います。



## 下大和田のかかし 2014

8月16日の下大和田YPPの活動日にみんなで製作したかかしたちをご紹介します。





# 里山たんけんレポート

## 第 175 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2014年8月3日(日) 晴れ

今日はトンボの調査を兼ねて観察会を行いました。いつもの観察ルートを捕虫網を持ってトンボを捕らえて種・雌雄を記録、マーキングして放しました。7月は右前翅にマークしたので8月は右後翅にマークしました。今日は10種73頭を捕らえましたが、7月にマークした76頭は一つも捕らえられませんでした。また、7月はマークした76頭のうちノシメトンボが68頭(約90%)とほぼ占有していましたが、今回は39頭(53%)、シオカラトンボ21頭(29%)とシオカラトンボが台頭してきました。7月には捕らえていなかったコノシメトンボ、オオシオカラトンボ、コオニヤンマ、ウスバキトンボなどが捕らえられました。発生時期の違い、生活様式の違いなどから同じ観察域で種や数が7月と8月はでは異なっていました。9月、10月と継続して調査しますがどのように移り変わっていくのか興味深いですね。涼しげなミスタマソウが、田んぼではオモダカ、ヘラオモダカが満開でした。樹液の出ているクヌギや柳を巡りましたがカブトムシの姿がほとんどありません。カナブンすらほとんど見かけられないのはどうしたことでしょう。

(参加者 大人14名、高校生3名、こども1名; 報告: 網代春男)

## 第 164 回 下大和田 YPP「かかしづくり」(第 7 回米づくり講座)

2014年8月16日(土) くもり

夏休み、そしてお盆の真っ最中でしたが大勢の方が田んぼに集まってくれました。

最初に8月のYPP恒例の収穫量調査として、田んぼのモミの数をかぞえました。稲株を選んでまずはその株に付いている穂の数、そして、穂の一つを選んでモミの数をかぞえます。一人5株ずつが目標。モミの数は100くらいになるので暑い中数えるのは結構大変ですが、小さな子どもたちもがんばってくれて、しっかりとデータを取ることができました。結果は追って報告します。

かかしづくりは涼しい林の中でしました。5人くらいずつのグループに分かれて6体のかかしを作りました。竹を十文字に組んだ骨に思い思いに選んだ古着を着せます。手足や頭の形、かざりなどに様々な工夫をこらして、最後の決めるのは顔の描き方。それぞれ個性的なかかしができあがりました。今回はかかしに弓矢を持たせるというユニークなアイデアも登場しました。

最後にグループごと、そして全員で記念写真を撮ってから田んぼに立てました。鳥よけのキラキラテープも張って収穫に向けて準備万端。あとはしっかりと実ってくれるのを祈るばかりです。

今回、千葉大学に留学しているインドネシアの学生さんたちが参加してくれました。話を聞いてみるとインドネシアでもかかしを作るといふこと。ワラだけで作るというその姿は日本のかかしとちょっと違うようです。一度、田んぼに立っている姿をみたいです。インドネシア語のかかしという言葉を日本語に訳すと“田んぼのおばけ”なんだそうです。おもしろいですね。

(参加者 大人22名、子ども10名、

報告 高山邦明)



ユニークなかかしが6体できあがりました。



インドネシアからの留学生チームがかかしと一緒に記念撮影。デザイン専攻の学生さんが描いたかかしの顔はとてもおしゃれ!

## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 8月 3日 オニヤンマの抜け殻を見つけた(高山)。
- 8月 5日 ツクツクボウシの声を初めて聞く(高山)。
- 8月 7日 マメハンミョウの団体さんを発見(金谷)。
- 8月17日 オニヤンマが元気に飛び(高山)。
- 8月26日 ジュズダム開花。カヤネズミの巣を二つ確認(金谷)。

### 下大和田

- 8月 9日 今年はカブトムシがきわめて少ない様子。雄4、雌5頭で今シーズンの最高だった。カナブンすら少ない状況(網代)。
- 8月16日 モズの高鳴きを聞く(高山)。

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

**連絡先(いずれも):** ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

**ご注意:** ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

## ▼下大和田 YPP 第165回「コシヒカリ・農林1号・黒米の稲刈り」(兼第8回米づくり講座) 第166回「同・脱穀」(兼第9回米づくり講座)

いよいよ今年の収穫のスタートです。最初にコシヒカリ、農林1号、古代米の黒米を刈り、田んぼで干した後、脱穀します。脱穀については稲の乾燥具合や天気によって日程が変わる可能性がありますので、当日や前日の天気が悪い場合はホームページで確認をお願いします(前日にはお知らせします)。

日時: 稲刈り 2014年9月13日(土)

脱穀 2014年9月27日(土) いずれも9時45分~14時 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:23、8:38など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。

参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

## ▼第177回 下大和田10月の谷津田観察会とごみ拾い

秋の花が咲き、実りの季節を迎えた谷津田を巡ります。トンボの調査も引き続き行います。

日時: 2014年10月5日(日) 9時45分~12時 ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(下大和田YPPに同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

## ▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時: 2014年9月14日(日)、9月19日(金) いずれも9時45分~15時

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上) 持ち物: 飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催: ちば環境情報センター

## ▼第112回 小山町 YPP「コシヒカリ」の稲刈り

今年の収穫の最初はコシヒカリです。カマを使っての作業ですが、小さなお子さんでも体験できますよ。

日時: 2014年9月20日(土) 10:00~12:30、小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴(田んぼが深いので長めがいい)、帽子、軍手、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

**編集後記** 今年の夏は梅雨前線が北に上がり切らずに停滞して西日本から北日本にかけて大雨の被害をもたらしました。被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。前線から離れていた関東では晴天に恵まれ、YPPの田んぼの稲は順調に生育しています。ただ、8月の最後の週には前線が南下して、急に涼しくなってしまう、これから出穂を迎える緑米や赤米のことが気になります。でも、みんなで思いを込めて作ったかかしたちがきっと田んぼのことを守って稲をうまく育ててくれることでしょう。(高山 邦明)